

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成28年3月31日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100978		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム 大洗	ユニット名	二の館
所在地	〒311-1311 茨城県東茨城郡大洗町大貫町長峰2922-1		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<b>平成28年3月31日現在、情報公表の掲載なし</b>
-----------------	-------------------------------

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年11月5日	評価機関 決 済 日	平成28年3月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>開設して12年目を迎え、当時からの入居者様は2名だけになりました。新しく入居される方は、介護度も高く、年齢も90才前後の方が多いため、入居年数のサイクルが以前よりも短くなっているのが現状です。重度化しても安心して生活できるように、母体である病院と連携を取り、ご家族と話し合いを持ちながら、その方に一番良いと思われる支援の方法を考えています。施設内での生活が多くなりますので、広い中庭を利用し、季節の花や野菜を育てています。入居者様が自ら作った野菜を献立に取り入れ、皆さんと一緒に美味しく頂き、季節感を味わっています。また、日々レクリエーションや行事にも力を入れ、入居者様が気分転換出来るよう努めています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>運営母体が病院であるため、定期的な健康診断や24時間の医療連携体制が整っており、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>献立は利用者の希望を取り入れ法人の栄養士が作成し、雛祭りや七夕祭りなどの行事食は特別メニューを提供するなど、美味しくバランスの取れた食事が利用者の楽しみとなっている。</p> <p>利用者が野菜や花を育てられるよう事業所の敷地内に自家菜園を作り、西瓜やじゃがいも、茄子などを食材にして味わっている。</p> <p>職員は「自分らしく生きる」という事業所の理念を大切にし、利用者の趣味を活かした環境を提供したり、地域とのふれ合いやボランティアが来訪するなど、利用者一人ひとりが生き生きとした生活ができるよう支援している。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念として、「自分らしく生きる」を掲げ、常に意識して働いている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児や中学生の体験学習を通して、地元の人々と交流している。面会にみえたご家族が、他の利用者と顔見知りだったりすると、話が盛り上がる事もある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用料金を期間限定で、1か月7万円に設定し、町の方が見学や入所しやすくした。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、出席率も良く積極的に意見を交わし、運営に反映している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況について日頃から町役場と連絡を取り、実状を伝え協力関係を築いている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を防止する為の玄関施錠は、家族等に説明し、ご理解を頂いている。事業所としては身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束をしないよう実践マニュアルを読んで各自理解している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無いよう、施設内研修を実施したり、日々話し合いを持ちながら職員の意識を高めるよう取り組んでいる。職員同士悪い言葉がけ、行動等を注意し合っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や青年後見制度についての知識が乏しい為、学ぶ機会を持ちたいと思っています。管理者の研修資料を元に職員が勉強し、入居者に支援できるようにしたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に十分な説明をし、解約についても理解・納得された上で入所して頂いている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置している。入居者や家族が遠慮なく話せるように、面会時、日々の状況を知らせ、日頃からコミュニケーションを図っている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を行い、意見交換を行っている。問題点はその都度話し合えるような環境づくりに努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に無理の無いようなローテーションを組み、いつでも対応できるような人数のもとで勤務できるよう心がけている。職員個々の努力や実績等を、代表者は把握していない。給料水準も低く、向上心を持ち働く事が出来ない。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町の研修会や法人外の勉強会に積極的に参加し、知識や技術を高めていく。職員レベル向上の為、認知症の研修に参加し、月の会議で報告している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大洗町の包括支援センターを中心に、交流・会議・勉強会があり、できる限り参加するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や訴えに耳を傾け、安心して生活できるよう信頼関係を築いていく。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時に家族の不安や求めていることをしっかりと受け止め、不安が少しでも解消できるよう努めていく。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞き、必要としているサービスが提供できるよう努めていく。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす中で、支え合う関係を築き、笑ったり、泣いたり、喜んだり、励ましてもらうこともある。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り、要望や意見を聞き、日々のケアに活かしていけるよう努めていく。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会時には、居室で気兼ね無く過ごせるよう配慮している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士が会話できるよう雰囲気づくりに心掛け、時には職員も加わりお互いが支え合っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体の病院に入院したり、他施設に移動された場合、サービスが終了してもお見舞いや面会をし、必要に応じて相談や支援に努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、一人一人の思いや希望を把握することに努め、職員間で情報の交換を行っている。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の際、情報提供書や家族からの十分な聞き取りによって、その人のこれまでの生き方、暮らし方を把握することに努めている。本人にもこれまでの生活を聞き、その人の人となりを把握するようにしている。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌や申し送りノート、朝礼、口頭等で入居者の体調の変化や行動を把握している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞きながら、担当者会議を開き、十分な話し合いの元、本人に沿ったケアプランを作成している。尚 状況が変化した場合はその都度見直しをしている。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録を毎日記入し、日常の暮らしや行動、状態を把握し、職員間で情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と連携を取りながら、必要なサービスが提供できるよう取り組んでいる。また 家族とも連絡を取り、要望を聞きながら対応できるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防等に働きかけ入居者の安全の確保に努め、日々の生活においてはボランティアによる行事や園児・学生との交流する場面をつくり、暮らしが楽しめるよう支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医は本人や家族の希望する病院となっているが、殆どの入居者が母体の病院に受診となっている。なお 婦人科眼科は他の医療機関に受診となっている。歯科においては訪問受診である。
31		○看護職員との協働	体調の変化に気付いた時は、随時病院と連絡を取り対処法を指導してもらい、また、外来受診や訪問診療時にも伝え、個々に適切な看護が受けられるよう支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には看護・介護サマリーを作成しお互いに情報交換を行っている。入院中は度々訪問し、早期の退院に向けた働きかけをしている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、速やかに家族や医師と話し合い、本人や家族の希望を尊重しながら支援の方法を検討していく。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等のマニュアルを作成し各ユニットの目に着くところに掲示している。定期的な講習・訓練は現在のところ行っていない。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の協力により避難訓練を行っている。災害対策についてもマニュアルを作成し、食糧・飲料水を備蓄している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴介助の際は、本人の自尊心を傷つけないよう、言葉かけに注意を払っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の思いに沿った生活ができるよう、日頃から声かけ・話し相手になり、信頼関係をつくるよう努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごすことができるよう見守りしながら、他入居者や職員とも関わりを持って日々の生活が送れるよう支援していく。
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理容があり、自分の好みの髪型にしている。また、その日の洋服を選ぶ入居者には自分で決めて、おしゃれを楽しんで頂いている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、行事食においては入居者の希望を取り入れたり、おやつには季節の果物を提供している。後片付けやテーブル拭きは職員と共に行っている。また、入居者が庭で作った野菜等も美味しく頂いている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事や水分量をチェックし、一日の必要量を確保できているか確認している。
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔の保持に心がけている。義歯は義歯洗浄剤を使用しているが、一人でできない入居者には介助している。自立していて自尊心の強い方については口腔内が清潔に保持されているのか確認できていない。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導はその人の排泄パターンに合わせて声かけをし、できるだけ失禁が減少するよう支援している。現在自立している人が多く、行きたい時に自由に行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為、十分な水分の摂取や日々の軽い運動を行っている。便秘気味の入居者には医師と相談し、内服薬の検討をしながら排便コントロールを行っている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は週2回となっているが、月から土曜日までいずれかのユニットで入浴を実施している為、希望があれば入浴できるよう配慮している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるよう、軽い体操やときには日光浴をし、気持ちよく眠れるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容を個人ファイルに添付し、職員の誰もが理解し、共有できるようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや下膳・庭の草取り・新聞折・清拭布折等の作業を喜んで行い、日々の生活の中での気分転換のひとつとなっている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、散歩や日光浴で屋外にすることはあるが、それぞれが歩行が難しくなっている為、遠出の場合は家族に協力を頂いている。また 病院外来受診の折、季節によってコースを変えて花見をすることもあ



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理が難しくなっている入居者がほとんど。盗られ妄想の人が多いため、今はお金の所持はない。必要な物は家族にお願いしたり、一緒に買い物へ行って頂いている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者の要望に応じて、家族に電話をかけたり、取り次ぎをして本人が安心して暮らせるよう配慮している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内の空間を活かして、居心地の良いスペースを数か所作っている。季節の花や作品を飾り入居者同士が雑談したりゆっくり過ごせるようにしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った仲間同士が自由に居室へ往来したり、ホールソファでのんびり過ごせるよう居場所づくりを工夫している。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には好みの写真や絵を飾り、本人の使い慣れた室内洗濯干しやタンスを持参して頂き、本人が落ち着いて生活できるよう工夫している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の居場所が分かるように、場所の名称を表示し、混乱しないよう工夫している。扉にぶつかり転倒する人の所はカーテンにし対応しているが、プライバシーの面もあるので本人が理解出来るようになれば、元に戻す方向で工夫している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない